1年Cグループ作成

産経新聞編集企画室の協力を得て制作しています。

聖心新聞
令和３年（2021）日刊28020号
2|1［月］

完全中高一貫６年制教育
聖心学園中等教育学校
〒634－0063　奈良県橿原市久米町222番地
TEL：0744－27－3370

飛鳥　ふるさとの風景

藤原京と飛鳥寺　思いはせ

昔「秘密基地」をつくって遊んでいた雑木林が、開発でなくなってしまった―という経験をしたことがある大人も少なくないだろう。そんな人も、飛鳥の歴史的建造物を回ってみれば、ほかの地域では感じられない、故郷へ戻ったような安心感を得ることができるはず。奈良県橿原市の聖心学園中等教育学校の生徒が、そんな飛鳥を象徴するような二つの遺構を調べ、紹介する。



約3万人がくらしていたとされる藤原京。現代は「藤原京跡」として残っている

まずは、694年に遷都された藤原京。奈良県の観光公式サイトによると、今は同市高殿町などの一帯に、遺構「藤原京跡」が残っている。

藤原京は、飛鳥浄御原宮で政治をおこなっていた天武天皇が、新たな国造りを目指して、天武5（676）年に新しい都を造ろうと計画したことが造営の始まりだという。

宮殿が都の中心にあるのが他の都城とは異なり、東西南北に張り巡らされた道路によって街並みが碁盤目状に区切られ、その中に多くの寺院や役所のほか、庶民の家が計画的に配置されていた。当時の藤原京の人口は約3万人と推定されており、現在の東京と比較すると、人口は約309分の1だったことになる。

次は、同県明日香村にある寺院「飛鳥寺」。安居院という呼び名もある。

仏教を保護してきた蘇我馬子が、政敵であった物部守屋を倒し、朝廷と協力することで得た権力を皇族・豪族・民衆に誇張する必要があったため、594年に巨大で斬新な建造物、飛鳥寺を像立させた。本堂には、日本最古の大仏である飛鳥大仏がある。

日本初の本格的寺院だったが、鎌倉時代に一度は大半を焼失したため、江戸時代に再建された。焼失の際に、大仏もかなり燃えてしまったこともあり、国宝には指定されていない。

飛鳥寺のそばには、蘇我入鹿の首塚もあり、仏教伝来から大化の改新までの、時代の流れを一気に見られたような気持ちになるから不思議だ。



歴史に注目が集まることが多い明日香村。村は人口減少や高齢化などの課題に取り組んでいる

子育て・高齢者支援　住みよい村に

明日香村、人口増加へ取り組み

歴史あふれる明日香村。村を訪れる歴史ファンは多いが、ほかの多くの自治体と同様、明日香村も人口減少、特に若者の減少と高齢者の増加に悩まされている。どんな問題があるのか、どう解決していけばいいのか。ボランティアが子育てを助ける「ファミサポ飛鳥」など、村が行っている取り組みに迫った。

明日香村の人口は、同村のホームページによると5492人（昨年11月時点）。平成2年の7363人から、1900人近くも減っている。

人口を増やすためには、移住してもらえるよう、もっと住みやすい村をつくるべきだ。そのために村が行っている取り組みの一つに「ファミサポ飛鳥」がある。

「子育ての手助けをしてほしい」「子育てのお手伝いをしたい」―。そんな気持ちをもった人々が会員となり、お互いに助け合いながら、子育てを支援する相互援助活動を行う有償のボランティア組織が「ファミサポ飛鳥」だ。

具体的にどんな活動をしているかというと、①保護者の病気や通院時の預かり②保育施設などへの送迎③保護者のリフレッシュ④兄姉の学校行事などの際の預かり―などがある。事務局は、会員間の連絡調整を行っているほか、会員に対する養成講座や会員同士の交流会を開催している。

村では、このほかにも子供向けの土曜学習塾「明日香村塾序」を開くなど、子育てしやすい村を目指し、人口減少という課題を乗り越えようとしている。

また明日香村は、平成29年4月に過疎地域にも指定された。高齢者が安心して生活し、住み続けることができる生活環境の整備や人口を増やす取り組みを行う必要がある。

高齢者の増加に応じた対策としては、①集落環境の向上②地域に応じた排水処理施設の整備③交通弱者への対応・支援④老朽化した公共施設の更新―などを行っている。高齢者が安心して住むことができるということは、災害対策の強化も大切な取り組みで、独自で消防団や防災用資器材の整備に努めている。

小道スイスイ　明日香「体感」

――レンタサイクル



飛鳥をゆっくりと楽しめるレンタサイクル「古都りん」

聖心学園中等教育学校の生徒が1月13日、地元橿原市の知られざる魅力を発見したことが分かった。その魅力とは、隣の奈良県明日香村などを回るレンタサイクルだ。村内をゆっくりと回るレンタサイクル。車では感じることのできない空気、柔らかい風、そして草花や森林といった自然を楽しむことができる。

レンタサイクルを使って明日香村を観光することには、いくつかのメリットがある。最もいいことは、車では感じられない空気のおいしさを味わうことができる点だ。

レンタカーを借りるよりも安い値段で飛鳥の旅を楽しむことができる。もし車で来ても、村内にはいろいろな場所に営業所があり、広い駐車場が併設されているため、自転車で回ることができる。

自転車は、小回りが利くため村内の神社や寺をまわるのにも便利で、快適だ。どの営業所で借りた自転車であっても、自分の好きな営業所で乗り捨てることもでき、わざわざ借りたところまで戻る必要はない。

レンタサイクルの代表例として、橿原市内膳町の「橿原市レンタサイクル古都りん」を取材した。

同町の橿原交流センターの1階にあり、近鉄大和八木駅から徒歩3分の近さだ。「古都りん」は、同市内の代表的な観光スポットとして、橿原神宮や江戸期の生活状況を見ることができる今井町の街並み、その中でも時空を超えて威厳を感じさせる今西家住宅などを紹介している。

レンタル料は、電動アシスト付き自転車が1回千円、それ以外の自転車は1回700円。手軽に、歴史を知るだけでなく「体感」できるところがお勧めで、訪れる人の興味や想像をさらにかきたててくれる。大和の歴史と魅力を、たっぷり楽しめる1日になりそうだ。

「古都りん」の営業時間は午前9時から午後6時まで。定休日はなし。場所は橿原市内膳町1の6の8、橿原交流センター1階。電話は0744・47・2270。



かしはら万葉ホールにある「こども科学館」では、子供たち向けの実験なども行われている

歴史だけじゃない！

イチゴやチョウ 飛鳥の宝

聖心学園中等教育学校の1年生の生徒が1月13日、飛鳥の人気施設について探究を行った結果をまとめた。歴史的な遺構に注目が集まりやすい橿原市や明日香村だが、明日香村のあすか夢販売所、橿原市の昆虫館など、市民をはじめ多くの人の人気を集めている施設もある。

あすか夢販売所（同村御園）は、地域の野菜や果物を新鮮なまま販売している。ここでしか買えない、オリジナリティーあふれる商品も多く、中でも、村特産のイチゴ「あすかルビー」を使ったソフトクリームが人気だ。

地域の農業の活性化にも取り組んでおり、観光客の土産物店としても営業している。国道169号線沿い、近鉄飛鳥駅沿いでもあり、アクセスもいい。

オオゴマダラなど約10種類、500頭以上のチョウが飛び交う「放蝶温室」がある昆虫館（同市南山町）は、たくさん昆虫を見る場所がある。虫たちを観察する「自然観察会」、「観察教室」などをはじめ、定期的にテーマを決めて展示する「特別展」や「企画展」なども行われている。

平成8（1996）年7月1日に完成したかしはら万葉ホール（同市小房町）。地下1階に同市立こども科学館、1階には同市立図書館があり、科学館では科学の勉強ができ、図書館では、多くの本を読むことができる。

橿原展望台は、大和八木駅南側の橿原市役所分庁舎（同市内膳町）やホテルなどから構成される複合施設、ミグランスの10階にある。県内一の高さを誇るビルの展望台からは、耳成山、畝傍山、香具山の大和三山や「大和の金は今井に七分」とうたわれている今井町、沈んでいく夕日を眺めることができる。

何度行っても楽しめる　橿原神宮・飛鳥寺



日本最古の仏像「飛鳥大仏」が安置されている飛鳥寺

聖心学園中等教育学校の生徒らが12月2日、飛鳥の新しい魅力をまとめた。「飛鳥の新しい魅力」、それは飛鳥の観光スポットである。歴史を持つ遺構が多い飛鳥、その中でも特に魅力のある二つの施設を紹介したい。

まずは、第1代天皇、神武天皇をまつった橿原神宮（橿原市久米町）があげられる。近鉄橿原神宮前駅で、鉄道利用者へのインタビューを行った際にも、飛鳥の魅力について「橿原神宮があること」と答えた人が多かった。

橿原神宮は明治時代に建てられ、広さは約50㌶。甲子園球場13個分もの広さだそうだ。そして、年間約250万人もの参拝客が訪れている。

神武天皇は、今の宮崎県にあたる地域に生まれた。「国民が家族のように協力する平和な国づくり」を目指して6年かけて大和に移り、日本で初めての天皇になられた。今から2680年前のことだと「古事記」や「日本書紀」に記されている。

橿原神宮では、神武天皇祭や昭和祭、紀元祭などのお祭りがある。初詣にも、多くの人が参拝に訪れる。

続いて紹介するのは、蘇我馬子が発願し、その後596年に推古天皇によって創建された日本最初の本格的な仏教寺院、飛鳥寺だ。創建当時は、東西約200㍍、南北約300㍍もの敷地をほこる大寺院だったという。

ここに安置されているのが、609年に造られた日本最古の仏像である飛鳥大仏。東大寺の大仏よりもさらに約150年も「年上」になる。数度の火災により、破損した箇所もあるが、顔や指の一部などは当時のまま残っている。

また飛鳥寺は、釈迦の誕生を祝う法会「花会式」が日本で最も早く行われた寺としても知られており、現在も「飛鳥寺花会式」として人気を集めている。